

健康

質問

先日、咳が続くため病院で検査を受けたところ、肺がんと診断されました。治療のために抗がん剤の処方を受けて服用しています。服用を始めて2週間後から顔や胸に湿疹が出ました。症状はいつまで続くのですか。対策はありますか。

抗がん剤服用で湿疹



岡本 恵
徳島大学病院
がん化学療法
看護認定看護師

回答

抗がん剤の副作用による症状の一つに皮膚障害があります。皮膚障害は顔や手など人目につく部位に症状が出ます。「ケアをしてもあまり改善しない」と、つらい経験をしている人もいます。症状がいつまで続くか分からずに心配でしょう。

質問者は、がんの増殖を引き起こす上皮成長因子受容体(EGFR)に作用し、その働きを抑えるEGFR阻害薬を使用していると思います。この薬剤を使用すると、高い頻度で皮膚障害が出ます。

継続して治療すると、時期によって現れる症状が変わります。

治療開始から1〜4週後にニキビのような湿疹が顔や胸、背中、頭、首

重要 ケア しない させ 化 重症



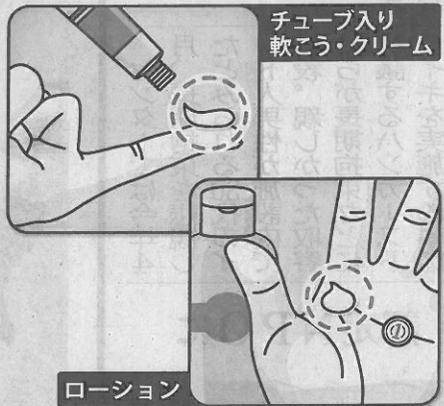
EGFR阻害薬の治療開始時から皮膚障害の予防として保湿クリームや、症状の悪化時にすぐ使えるようステロイド軟こうを処方します。

普段の生活では、朝夕きちんと洗顔し、毎日入浴しましょう。体を洗う時は多めの水分でよく泡立て丁寧に洗ってください。

4〜5週間後から皮膚乾燥が起きます。7〜8週間後からは、爪の周辺に炎症を繰り返します。保湿クリームは病院処方の方の軟こう以外でも自分の肌に合わせて使えます。

乾燥後、肌が乾燥する前に十分塗りましょう。多くの医療機関では、クリームなら入さし指

皮膚障害対策のセルフケア



チューブ入り
軟こう・クリーム

ローション

清潔に皮膚保ち保湿を

皮膚障害を重症化させないためにはセルフケアがとても重要です。副作用がひどくなると、治療が続けられなくなりま

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉

(平日午前
8時半から
午後5時まで)
へ。

